

## 当歳馬の発情下痢について

浦河診療所 大塚 智 啓

7月に入り、繁殖シーズンはだいぶ落ち着いてきたのではないかと思います。今回はシーズン中に多くの生産者の方が見られたと思われる発情下痢について書かせていただきます。

発情下痢とは、産まれて5～14日目あたりに見られる非感染性の生理的な下痢のことを言い、1～7日間程続きます。この時期がちょうど親の分娩後初回発情と重なることから発情下痢と言われています。



(発情下痢)

親の初回発情に合わせて見られることから、発情による親の乳成分の変化が原因であると思われる方がいらっしゃると思います。しかし、親のいない子馬でもこの下痢は見られることから、子馬が固形物や親の糞を食べることによる消化管の変化がこの下痢に関係していると考えられています。食糞は見ていて心地のいいものではありませんが、子馬にとっては普通のことであり、食糞をすることにより腸内細菌叢を定着させていると考えられて

います。他に、消化管の分泌の変化も原因に成り得るとされています。

発情下痢の特徴としては、一時的な非疼痛性の下痢で、乳はよく飲み、発熱はなく、行動も普通です。異臭は基本的にしません。

下痢の形状はねばねば～水様性であり、まれに重症化し長引くことがあります。

治療はほとんどの場合必要ありませんが、まれに水様性下痢の場合で脱水症状を呈することがあり、輸液療法を必要とすることがあります。乳酸菌製剤やヨーグルトの投与も腸内細菌を整えるので、下痢の軽減によいでしょう。

また、下痢が肛門の周りやお尻についてしまうと炎症が起きてしまい皮膚の毛が抜けてしまい、痛みを伴うこともあります。これを予防するために流動パラフィンやワセリンの様な油性の軟膏剤を皮膚に塗ってあげるとよいでしょう。痛みがある場合は鎮痛効果のあるクリームを塗るとよいかもしれません。

以上のように、発情下痢は子馬の体調に大きな変化を及ぼすものではありません。しかし、この時期の下痢であっても、体温が高い・乳の飲みが悪い・元気がない・下痢が水っぽく異臭がするといった症状がある時は別の原因の下痢であり治療を必要とする可能性が高いので、その場合は獣医師に診てもらう必要があります。

これから牧草やセリで忙しい時期になるとと思いますが、お体にお気をつけてお過ごしください。